一般質問

一般質問は、市政に関わる市の考えを聞いたり、議員が政策を提案したりするものです。
各議員の写真の下にある二次元コードから、インターネット録画中継をご覧いただけます。

① 本橋　貢（公明党） p5
1 おくやみ相談窓口
2 セーフコミュニティ
3 タクシー利用券・自動車等燃料費給付金
4 撮影スタジオ誘致

② 小松　穂波（新政ちちぶ） p6
1 市政運営
2 ふるさと納税拡大に向けた仕組みづくり
3 出産祝金
4 市長・副市長の市政運営への意気込み

③ 宮前　昌美（市民クラブ） p6
1 ちちぶ銘仙館の今後と聞取り調査の実施
2「地域医療連携推進法人」設立への取り組み
3「広域連携調整官」設置に向けて

④ 宮川　浩司（まほろば） p7
1 高齢者ゴミ出し支援
2 空き家対策
3 荒川流域圏構想

⑤ 浅海　忠（市民クラブ） p7
1 地域公共交通
2 地籍調査の取り組み
3 再生エネルギー政策の取り組み
4 第75回全国植樹祭

⑥ 黒澤　秀之（無会派） p8
1 有機栽培の推進とオーガニック給食
2 羊山公園の再整備
3 少子化に伴う小学校の統廃合
4 旧秩父東高校の利活用

⑦ 出浦　章恵（無会派） p8
1 病児・病後児保育
2 こども誰でも通園制度
3 子どもの遊び場

⑧ 内田　均（まほろば） p9
1 旧秩父東高等学校の利活用
2 青少年育成会廃品回収報奨金
3 小中学校の再編
4 新病院建設予定地

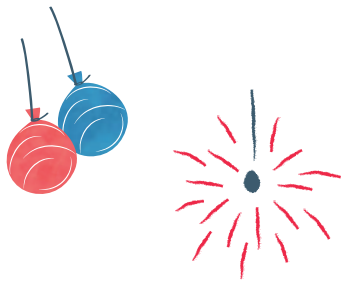
⑨ 笠原　宏平（まほろば） p9
1 秩父市の農業政策
2 荒川地域の整備状況

⑩ 赤岩　秀文（市民クラブ） p10
1 選挙における投票率の向上
2 ファシリティマネジメント
3 特別職報酬等審議会
4 合併20年記念の事業

⑪ 髙野　宏（市民クラブ） p10
1 町会の財政事情
2 カラスによるごみ荒らし対策
3 酷暑下の夏祭りの開催
4 民生児童委員等の推薦他

⑫ 坂本　勝幸（まほろば） p11
1 埋め土、盛土、土砂堆積110番
2 第75回全国植樹祭を終えて
3 定峰峠のトンネル化

⑬ 髙野　佳男（まほろば） p11
1 市立病院建替えと今後の医療体制
2 今後の財政運営の方針
3 市街地地区の地積調査



おくやみ相談窓口

公明党　本橋（もとはし）　貢（みつぎ）

問　「おくやみ相談窓口」導入については、令和元年の一般質問により初めて「おくやみパンフレット」が作成された。市民の皆さんからは、高齢になり家族が亡くなった後の煩雑な手続きが大変との声をいただく。「書かない窓口」導入に併せて「ワンストップサービスのおくやみ手続きシステム化」導入と相談者を支援する「おくやみ相談コンシェルジュ」導入の考えは。

答　おくやみ相談コンシェルジュの導入については、他市町の先進事例や運用実績を参考とし、また、ご遺族の精神的・身体的ご負担を軽減し行政手続きの利便性の向上が図れるよう運用設計する。年度内導入に向けて「おくやみコーナー」設置を検討している。

●セーフコミュニティ

問　各委員会活動の成果と今後の活動状況は。

答　科学的データに基づく予防に重点を置き、横断的連携・協働により十分な成果を上げ所期の目的を達成できた。今後は、これまでの活動で蓄積したノウハウを引き継ぎ、多額の予算を要する国際認証を受けなくとも「安心・安全なまちづくり」に必要な活動の継続が可能であると考える。

●福祉タクシー利用券・自動車等燃料費給付金

問　福祉タクシー利用券の利用状況と利用率を上げる取り組みは。

答　６年度の利用率は41・９％と低い。１回あたりの利用枚数の緩和を県に働きかける。また、交付枚数の拡大を前向きに検討する。

おくやみパンフレット

◎撮影スタジオ誘致

秩父市の未来に向けたビジョン

新政ちちぶ　小松（こまつ）　穂波（ほなみ）

問　市長として、市が未来に向けてどのようなまちになっていくことが望ましいと考えるか。

答　市長就任にあたり、市民の皆さんに「個性ある地域の力を活かして、わかちあいの秩父をつくる」ことを約束した。職員と力を合わせ、知恵を出し合い、心を一つにして歩み、市民の皆さんのご意見を直接伺う機会を設け、このまちに生まれてよかった、このまちに暮らしてよかったと思っていただけるようなまちにしたい。

●財政の健全化

問　7年度一般会計予算について、将来的な見通しと費用対効果を考慮し、見直しを行う考えはあるか。

答　事務事業ヒアリングを行い、協議や検討を行っている。

●ファシリティマネジメント

問　平成28年から30年間で、公共施設の延床面積の削減目標を35％とされているが実現できるのか。

答　効率的な機能の集約化を重点的に進め、現在の秩父市の人口規模と財政力に見合った機能統合や再配置など、対策を検討する。

●ふるさと納税拡大に向けた仕組みづくり

問　現在は財務部にふるさと納税担当の設置があるが、より相応しい部署があるのでは。

答　より相応しい部署に移行することも積極的に考えていく。

秩父市のふるさと納税のホームページ

◎出産祝金
◎市長・副市長の今後の市政運営にかける意気込み

「地域医療連携推進法人」設立への取り組み

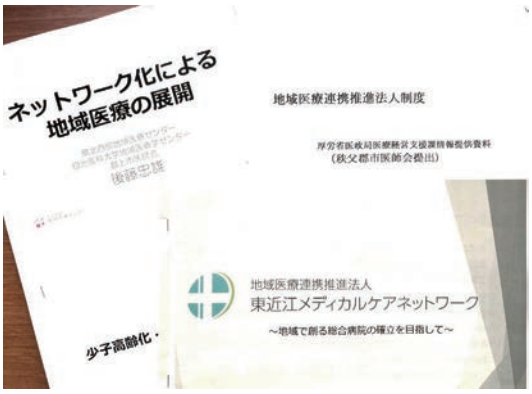
市民クラブ　宮前（みやまえ）　昌美（まさみ）

問　『地域医療連携推進法人』は、「地域での医療機能の分担や連携を進める目的で、設立母体の異なる法人が共同参画する制度」として、平成29年に創設された。合併とは異なり、各法人の独立性を維持しながら、参加法人同士で連携を強化することができる制度で、秩父地域のような人口減少や、医師の高齢化・偏在化が進む地域にとって、「持続可能な医療体制の構築」への有益な取り組みと考えられる。法人設立に向けた市としての考えは。

答　ちちぶ医療協議会で、市長から「1市4町の職員と病院事務職員の勉強会から始め、勉強会には、秩父郡市医師会にも参画いただき、地域医療連携推進法人の研究を進めたい。」との発言があった。早急に勉強会を開催し、取り組みを進めていきたい。

問　「地域医療連携推進法人」設立にあたっては、連携を進める地域で、自治体や医師会、病院などの参加団体で「医療連携推進方針」を定め、「地域医療構想調整会議」で協議の後、県知事に申請することになる。可能な限り早く、「市立病院建設計画策定委員会」と同時期に法人設立についても話し合いをスタートさせ、病院建設基本計画と連動して進めていくことが必要と考えるが。

答　地域医療連携推進法人の仕組みを学ぶ勉強会から行い、市立病院建設基本計画の策定と並行して取り組みを進めていく。



「地域医療連携推進法人」についての資料

◎ちちぶ銘仙館の今後とオーラルヒストリー（聞き取り調査）
◎「広域連携調整官」の設置

高齢者のごみ出し支援の実装に向けて

まほろば　宮川（みやがわ）　浩司（ひろし）

問　単独世帯の高齢者は増えつつあり、家庭のごみ出しが困難であるとの声が依然として多い。５年12月議会での質問以後の進捗状況は。

答　前回質問後、環境部、福祉部、秩父広域市町村圏組合等と共に検討を重ねてきたが、高齢者専用ごみ収集ボックス、いわゆる「ハンディキャップボックス」の設置を検討している。これにより、高齢者が曜日や時間を気にせずにいつでもごみの排出が可能になるが、気温が高い時季における悪臭等の課題があり、現在その検証を始めるところである。

問　市には、高齢者のごみ出しに不便を感じる等の市民の相談は、どの程度寄せられているか。

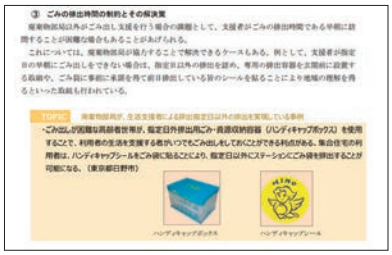
答　地域課題を検討する場として、「地域ケア会議」を行っているが、そこで議題に上がっている。しかし、こういった声はほんの一部であり、今後も他職種と連携して高齢者の声の把握に努める。

●空き家対策

問　空き家の実態調査は平成29年に行って以来数年が経過している。その後の実態調査の進捗状況と、今後の調査の情報更新頻度は。

答　空き家実態調査は、現在入札により業者選定を進めており、決定次第、速やかに調査を依頼する。

空き家の適正な管理と有効活用には、実態把握が不可欠であるため、市民からの情報提供や通常業務のなかで併せて調査も行うが、今後の大規模な調査は５年を目安に情報を更新していきたい。



（出典：環境省ホームページ）

◎「荒川流域圏構想」について

再生エネルギーの取り組み

市民クラブ　浅海（あさうみ）　忠（ただし）

問　市における再エネの取り組みは。

答　６年度に環境省の重点対策加速化事業交付金の採択を受け、再生可能エネルギーの導入推進を目的とした補助事業を実施している。６年度の実績は、個人向け太陽光設備が32件１３６kW、事業者向け太陽光設備が２件19kW、公共施設向け太陽光設備１件１９９kWの合計３５４kWの太陽光設備が設置されている。

７年度は、個人・事業者向けの補助予算額を、６年度より大幅に増額するとともに、公共施設では秩父第二中学校へ太陽光設備を設置するなど、再生可能エネルギーの導入を推進していく。

今後の取り組みは、地域の脱炭素化、地域内における電力の安定供給を実現するために、秩父新電力が、自主電源を確保していくことは、重要であると考えている。

環境省の交付金事業により設置された太陽光設備の余剰電力を秩父新電力が買い取りを行うことで、自主電源の増加につなげていくとともに、この電力を地域内に供給することで、電力の地産地消を推進していきたい。

小水力発電については、市内の河川では安定した流水量や十分な落差を得られないこと、また設備導入や維持管理に多額のコストを要することが想定されていることから事業開始には慎重な判断が必要となるが、小水力発電は、本市の地域特性をいかせる重要な再生可能エネルギーの一つであると考えている。今後は、自治体向けの水力発電事業研修会へ参加するなど、効果的な導入方法等について、引き続き検討を進めていきたい。

本庁舎・市民会館に設置された太陽光パネル

本田静六博士が設計した羊山公園の再整備を

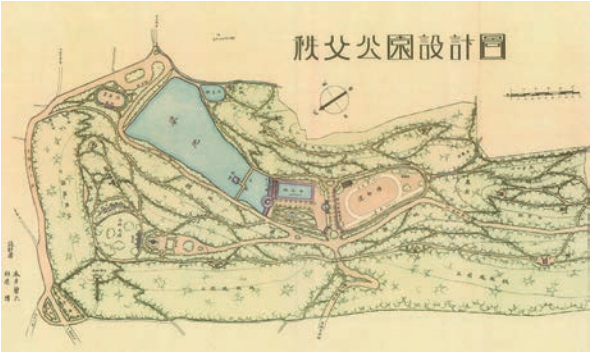
無会派　黒澤（くろさわ）　秀之（ひでゆき）

問　秩父公園（現羊山公園）の見晴しの丘エリアは、全国植樹祭にも登場した日本初の林学博士であり、「日本の公園の父」と呼ばれた本多静六博士により、昭和11年に手掛けられた公園である。現在は、桜の木をはじめとする老木ばかりが目立ち、この時期はマーガレットが忠霊塔を囲むように無作為に咲き、手入れが行き届いているようには到底思えない。全国植樹祭を契機に再整備する考えは。

答　羊山公園に限らず、市内の都市公園の各施設は老朽化が著しいものも多く、安全・安心な施設利用と維持管理費の縮減を図る観点から計画的な改修を行うことを目的として、６年度に市内６つの都市公園を対象とした公園施設長寿命化計画を策定している。羊山公園については、今年度、わんぱく広場の老朽化が著しい遊具の更新を計画中である。見晴しの丘エリアの施設については、藤棚、照明、擬木柵、花壇、トイレ等について順次、改修を実施する計画である。

問　見晴しの丘は、アニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』において、オープニング画面に登場することや、西武秩父駅からも近く、秩父市内を一望できることから、現在もアニメの巡礼や観光客に人気の高いスポットである。他方、羊山公園自体が秩父市ハザードマップにおいて、緊急避難所に指定されており、整備の優先順位は高いと思われる。整備のスピードを上げては如何か。

答　避難所施設としては、駐車場やグラウンドが主な施設となっており、避難に必要な施設が必要となれば整備をしていく。



本多静六博士により設計された秩父公園（現 羊山公園）

教育と子育てへの投入は何より大事
病児・病後児保育事業

無会派　出浦（いでうら）　章恵（あきえ）

問　ファミリーサポートセンターではなく事業として開始の考えは。

答　秩父地域１市４町で定住自立圏での実施を検討してきた。医療機関等での設備とスタッフを備えた病児・病後児保育施設を設置することが、仕事と育児を両立する子育て世代の支援策となり、受け入れ体制が充実することで、保護者と児童がより安心して利用してもらえるものと認識している。設置の実現に関係機関先と連携を図り検討していく。

問　今後、病児・病後児保育事業についてどのように進めていくか市長の考えは。

答　施設設置することが望ましいと考えている。新市立病院建設準備の段階から規模について、また、病児・病後児保育事業の広域連携の検討、実施について前向きに協議していく。

●子どもの遊び場

問　小さい子どもと家から歩いていけて、安全に遊ばせる場所が欲しいという市民の声があるが、どのように考えているか。

答　小さな子どもがいる家庭から一定の需要があることは認識しており、まちなかに公園が不足していると考えている。新たな公園を整備する場合は、用地、財源の確保などから十分に検討する必要があると考えている。まずは既存の公園整備を中心に考えていく。公園遊具入れ替えの際、インクルーシブの視点を入れた整備・改修をするべきと考えている。

身近な公園整備が求められる

◎こども誰でも通園制度

旧秩父東高等学校の利活用

まほろば　内田（うちだ）　均（ひとし）

問　旧秩父東高等学校の利活用について、市長の考えは。

答　新病院建設候補地の一つでもあり検討をしたが、建物は老朽化が進み再利用は困難と判断した。取壊し、県への返還も視野に入れている。

●育成会廃品回収の検証

問　大野原育成会廃品回収報奨金総会会計資料によると、１７３３円減少していた。新聞・雑誌・段ボールの減少が原因。健全育成の面から報奨金・売上金の減額は育成会事業が成り立たなくなる現状である。さらなる増額をお願いしたい。

答　育成会へのアンケート調査を実施し検討したい。

●小中学校の再編

問　新生児減少に伴う小中学校の再編の考えはあるのか。

答　全国的に想定を上回る急速なペースで少子化が進行している。市も例外ではなく、非常に深刻な状況である。学校統合は避けて通れない課題と考えている。地域の皆さんにご理解をいただきながら、子どもたちのことを最優先に考え、取り組んでいく。

●新病院建設予定地

問　新病院の予定地についての考えは。

答　現在地を含め、検討委員会でスピード感を持って決定していく。

旧秩父東高等学校の玄関

秩父市の農業政策

まほろば　笠原（かさはら）　宏平（こうへい）

問　農業従事者が抱える課題として高齢化と後継者不足をどう考えるか。

答　地域農業の担い手を育成するため、秩父市農業担い手育成塾を開催している。市内在住で、新しく農業経営を始めようとする年齢や健康面等の条件を満たす方が最長２年栽培技術や経営手法を関係機関と連携して研修を受けた後、独立して農業を営んでいる。

問　遊休農地や耕作放棄地対策は。

答　市の現状は、６年度末時点で、総農地総面積１０１０ヘクタールのうち遊休農地面積は２０４・95ヘクタールで20・３％である。地域農業経営基盤強化促進計画の策定を進めており、農業者の話し合いにより10年後を見据え、農地ごとに将来の利用者を明確化した目標地図を作成し、農地の明確化と農地の貸し借りを簡素化して遊休農地の解消を図っている。

問　農地の集積化の現状は。

答　農地中間管理事業を埼玉県農林公社が行っている。農地の貸し手と借り手の橋渡しを行い、経営規模拡大を希望する就農者に紹介する事業で、市では相談を受けた際に制度の説明、農林公社との交渉・手続きを行っている。

●荒川地域の道路状況は

問　国県道を含めた荒川地域の道路整備事業の進捗状況は。

答　国道１４０号の歩道整備を県営つばきの森団地付近と秩父鉄道武州日野駅付近２か所、また荒川郵便局付近は橋梁新設道路線形事業、双神トンネル付近は引き続き法面工事を行っている。市道では荒川幹線２号線、４号線、１２０号線の順次工事を進める。

市内の農地

今後のファシリティマネジメント

市民クラブ　赤岩（あかいわ）　秀文（ひでふみ）

問　公共施設等総合管理計画、個別施設計画策定について、計画策定後の進捗状況、具体的な実績についてはどのようなものがあるか。

答　公共施設等総合管理計画では総量の削減を目指し、計画策定後から施設の統廃合や長寿命化を行っている。施設の統合としては大滝総合支所に大滝国保診療所を統合、日野田保育所を大規模改修し影森保育所を統合。施設の廃止については、宮地児童館、星の子教室、荒川幼稚園、旧小倉沢小中学校校舎等の廃止解体を進めた。また、大規模改修した施設は尾田蒔中学校、高篠中学校、南小学校で校舎の長寿命化を進めた。公共施設等総合管理計画、個別施設計画に基づき計画期間内に目標を達成できるように努める。

問　現在の進捗状況では目標値を達成することは難しいのではないかと考える。今後は毎年予算枠を設けて、小規模な施設からでも廃止解体を進め、大規模な施設に関しては、今までは行っていなかったと思うが、単年度ではなく複数年度に分けての廃止解体を行うべきと思うが考えは。

答　将来世代に負担をなるべく小さくすることが重要。計画にある延べ床面積35％削減は堅持していかなければ、将来の負担増は確実であると考える。提案のあった複数年度にわたっての廃止解体については取り組んだことはなかったが、今後は検討をより加速化して、聖域なく計画達成をできるようスピード感をもって進めていく。

インターネットで見られる公共施設総合管理計画

◎投票率の向上

◎秩父市特別職報酬等審議会

カラスによるゴミ荒らし対策

市民クラブ　髙野（たかの）　宏（ひろし）

問　市に寄せられるカラス被害の状況は。

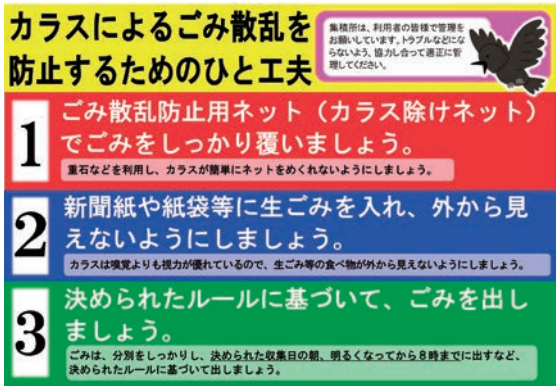
答　被害の状況は、主に指定日や時間を守らずに出された可燃ごみがカラスにつつかれ、道路等に散乱するといった苦情、被害がある。散乱したごみは迅速に回収するよう努めているが、突発的な対応となるため、大変苦慮している。散乱ごみの回収に際し、近隣住民の皆さんの善意によるご支援、ご協力があると聞いている。

問　ボックスを設置していないごみステーションにおいて、市で行っている被害対策およびその研究状況、市民への啓発活動は。

答　被害が発生した際には、状況にもよるが、管理している町会の環境衛生推進員の方に、被害対策として、ごみ袋の中身をカラスが認識できないよう、また、つつくことができないように、ブルーシートや網目の細かいネットを活用するといった提案をさせていただいている。カラスは、臭いに対する臭覚は劣るが、視覚が非常にすぐれており、紫外線も見えるため色の識別精度が高く、半透明のごみ袋の中にある物を餌として認識し、赤い色は肉、水に濡れた物は魚と認識するようである。

この「紫外線」に着目し、秩父広域市町村圏組合に「カラス対策ごみ袋」の確認をしたところ、紫外線を通さない顔料含んだ素材は、特許の関係で製作できる業者が限られコストが高いとのことであり、今後調査研究を進めていく。

啓発活動については、他自治体の先進事例等から、収集したカラス被害対策の情報を、地域の環境衛生推進員を通じて提供していく。



カラス被害対策

埋め土、盛土、土砂堆積110番

まほろば　坂本（さかもと）　勝幸（かつゆき）

問　市内における違法な埋め土、盛土問題に関して、令和４年に開設された土砂堆積110番について、開設からこれまでの通報件数、通報の内容、通報の地域、また通報を受けての対応方法は。

答　７年５月末現在の通報件数は、本庁管内31件、吉田支所管内６件、大滝支所管内１件、荒川支所管内１件、合計39件である。通報内容は、土地に土砂を搬入しているようだが許可を取っているのか、土砂を積んだトラックが見えない場所に入っていった、など。対応としては、直ちに現地調査を行い、その結果問題ないものも一定数あった。また指導の末、土砂等の撤去等に至った事案もあった。

●第75回全国植樹祭

問　第75回全国植樹祭、当日の県内外からの招待者数は。また、秩父市記念事業、笠鉾・屋台の特別公開での経済効果は。

答　主催者である埼玉県の報告では特別招待者、県内外からの招待者総数は２４８５人、また式典の運営など大会参加者は４５８８人である。記念事業での経済効果は１億３５００万円が見込まれている。

●定峰峠トンネル

問　定峰峠のトンネル化について今後の取り組みは。

答　近年、国土交通省では、地方部における道路事業の必要性や効果について多様な側面から評価すべきとの声がある。定峰峠トンネルの事業特性を考慮し、今後も粘り強く要望を続けていく。

第75回全国植樹祭大会プログラム

公約の「でっかい夢の新病院」は本当か

まほろば　髙野（たかの）　佳男（よしお）

問　市長は就任当日の記者会見で「新病院スピードアップ宣言」をされたが、今後の予定は。

答　７年度から８年度にかけ基本計画を策定、その後、設計と工事発注を行い、11年度後半～13年度に施工、13年度末に開院予定。

問　病院内に全天候型の遊び場や買い物スペースの併設が挙げられたが、感染症対策は。

答　病院のついでに用事を済ませられるよう、近隣施設も含めて検討したい。

問　市長選挙政策を聴く会で３路線のバスターミナルとヘリポートの図が示されたが具体的な想定は。

答　秩父地域のどこからでもアクセスできる病院のイメージとして３台のバスの画像を示したが、イメージ画像であり、バス路線やヘリポートの整備については、新病院の基本計画、設計の中で具体的な検討を進める。

問　市長は24時間３６５日の診療を「すぐ実施する」とのことだが、３交代制で医師２人、看護師６人を配置すると人件費だけで年間約１億７千万円が必要と試算される。財源と人員の確保は。

答　救急救命センターの設置を想定しているわけではなく、現状の人員と体制の下、秩父地域の５つの二次救急医療機関や県との連携を進めることで実現に努めたい。

●市街地地区での地籍調査の実施

問　秩父地域周辺での幹線道路の整備や将来の人口減少に対応したコンパクトシティ形成には中心地区の地籍調査が不可欠と考えるが。

答　調査の有用性、重要性については認識している。引き続き研究したい。

将来のまちづくりの中核部として地籍調査の実施が待たれる秩父駅東口付近

永年勤続表彰

４月15日開催の埼玉県市議会議長会および５月20日開催の全国市議会議長会の各総会において永年勤続表彰が行われ、当市議会は次の方が表彰されました。

「埼玉県・全国市議会議長会　表彰　25年以上」

浅海　忠 議員

「埼玉県・全国市議会議長会　表彰　15年以上」

木村隆彦 議員

髙野　宏 議員

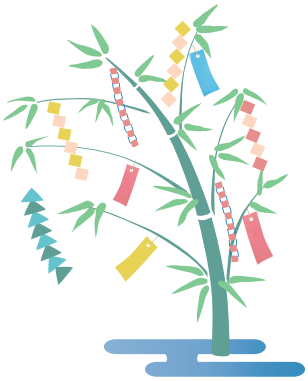
●意見書

６月定例会の最終日に、議員提出議案の意見書１件が提出され、審査の結果、原案のとおり可決されました。

可決された意見書は、内閣総理大臣をはじめ、関係行政庁等に送付されました。内容については、次のとおりです。

厚生年金への地方議会議員の加入を求める意見書

国民の幅広い層からの政治参加や地方議会における多様な人材確保の観点から、厚生年金への地方議会議員の加入のための法整備を早急に実現するよう強く要望する。



市議会を傍聴してみませんか？

傍聴される際に、特別な手続きや事前の予約は必要ありません。傍聴を希望する日に、市役所本庁舎４階の「傍聴受付」にて、資料を受け取り、傍聴席にお入りください。

市政を知る機会として、ぜひ、お気軽にお越しください。

９月定例会の予定

日程	議事
８月27日(水)	開会、議案説明
９月１日(月)	議案に対する質疑
２日(火)	まちづくり委員会
３日(水)	文教福祉委員会
４日(木)	総務委員会
８日(月) ９日(火) 10日(水)	一般質問
17日(水)	委員長報告、採決、閉会

※各日、午前10時開会予定です。
※議場は、本庁舎の４階です。
※日程は、定例会初日に正式に決定されるため、都合により変更になる場合があります。

編集後記

５月１日に清野市長、21日に引間副市長を迎えた〝新体制〟での秩父市において、秩父市議会６月定例会は、全ての議案が可決の後、無事閉会いたしました。

各議員の一般質問に際し、市長はこまめにメモを取り、再質問での答弁にも、部長たちとアイコンタクトを取りながら、率先して答弁されている姿は、大変頼もしくありました。

市長と議会は相互にチェックし、抑制する役割を果たしながら、バランスを保つ必要があります。

適度な緊張関係を維持し、市政運営を進める「二元代表制」として、議案の一つ一つに丁寧に向き合い、議会としても議論を尽くして、今後も真摯に市政の一翼を担ってまいります。

令和７年８月　宮前　昌美　記

編集委員

委員長　浅海　髙野　宮川　宮前　小松　黒澤　出浦　内田　本橋
副委員長　浩　昌　穂　秀　章
委員　忠　宏　司　美　波　之　恵　均　貢